

着眼大局



滋賀銀行 専務取締役
高橋 祥二郎

「産・学・官・金 + 地域」

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましてはお健やかに、そして決意も新たに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は「少子高齢化」「地方創生」「女性活躍」のテーマが至るところで論じられた一年でありました。いずれも次世代に積み残せない重要な課題であり、今年こそ、その解決に向けた確かな歩みが期待される場所です。

特に、地方銀行が大きな役割を担う「地方創生」については、私たち滋賀銀行も「地域振興室」を中心に公民連携、地域活性化に向けた取り組みを推進しています。今後も行員一人ひとりの意識を高め、全行的な活動をさらに加速させなくては、との思いです。

さて、滋賀県には歴史・文化・地理・自然環境など、多種多様な地

域資源があります。昨年、滋賀県では県外からの宿泊客数や外国人観光客の伸び率が全国でトップクラスとなり、食を中心とした地産分野においても新たな芽が育ちつつあります。

これからの「地方創生」を展望した時、滋賀県のその高いポテンシャルをどう活かすか、あるいは、地域資源(素材)をどのように発掘(料理)するか、などの課題があります。さらには、製造業分野における「オープンイノベーション*」と同じく、「産・学・官・金(金融)」と合わせ、「地域社会」との協働が欠かせないと考えます。

新年を迎えるにあたり、時代を越えて受け継がれてきた「近江商人のこころ」を軸として、「産・学・官・金 + 地域」が連携を図り、今年が「地方創生」元年となるよう全力で取り組まねば、と決意を新たにしました次第です。

※オープンイノベーション(open innovation) / 自社だけでなく他社等が持つ技術やアイデアを組み合わせ、革新的な製品開発につなげる方法。

県内データ あれこれ

● 宿泊旅行統計調査

県内の宿泊者数は堅調に推移

3年ぶりの増加に転じるか

今回は観光庁の「宿泊旅行統計調査」から、県内の延べ宿泊者数の推移をみてみたい。県内の延べ宿泊者数は2011年の431万460人をピークに、12年(421万7,270人)、13年(407万4,590人)と、減少傾向にあった。しかし14年に入り反転の兆しがみえている。14年1~6月の延べ宿泊者数の合計は、前年比44.7%増の209万9,250人で、大幅な増加となった。

また、外国人宿泊客も急増している。14年1~6月の合計は、11万8,980人、前年比では195.7%増となった。これは12年の実績(11万4,000人)を超え、13年(13万1,880人)に迫る勢いだ。

県内の宿泊者数は、下期(7~12月期)

に増加する傾向があるため、14年の延べ宿泊者数は3年ぶりの増加に転じるとみられている。

円安、ビザ発給要件の緩和等により、全国的に外国人の宿泊者が増加、また、円安による日本人旅行者の国内回帰な

ど、取り巻く環境は好転している。

県内には琵琶湖や歴史的な文化遺産など、豊かな観光資源があることに加え、世界的に人気の高い京都へのアクセスの良さなどの強みがある。これらをうまく活用し、地域ブランドを高め、県内の観光産業が発展することを期待したい。

(株)しがぎん経済文化センター 吉川 友

